

NEWSLETTER NO.11

アフガニスタン事業のパートナー 「コミュニティ ワールド サービス アジア」をご紹介します

当団体は、アフガニスタンでも特に貧しい地域の1つである ナンガハル州の女子教育支援（2014年 - 2017年1月）、2015年に発生したアフガニスタン・パキスタン地震後の緊急支援、国家災害庁及び現地INGOの防災研修（2016年11月）、ナンガハル州・ラグマン州のコミュニティ防災力向上事業（2017-2019）を行ってきました。また来る4月からは帰還民支援も開始の予定です。

私たちの同国での支援は、現地のINGO「コミュニティ ワールド サービス アジア（以下CWS Asia）」とのパートナーシップにより実現しています。彼らは1954年からパキスタンカラチに本拠地を置く団体で、当団体の事務局長が2004年から2009年まで緊急支援・防災に関わる部門長として駐在・活動したというつながりもあります。

彼らの活動は、多発する自然災害や1970年代から続く紛争で被災した国内避難民・帰還民への緊急・復興支援及び減災活動推進、教育の質向上（女子就学率向上、学校安全環境改善）、保健衛生（移動式保健サービスの提供、母子健康促進、

保健従事者研修、HIV・AIDS）、生活改善（女性の経済的及び社会的立場の向上、職業訓練）給水事業と多岐にわたっています。

<https://communityworldservice.asia/videos/>

昨年11月、国家災害庁及び現地INGOの日本での防災研修時に、CWS Asiaアフガニスタン事業責任者、ネジャバット・カーン氏にはじめて会いました。彼は当団体の事務局長とは10年来のつきあいですが、真摯で、威厳もある、でも少しシャイな人柄の彼が、自身が子ども時代に経験した難民キャンプ生活について語ってくれたことが心に残っています。彼が率いる現地チーム全員に会うことは今は叶いませんが、今後も彼らと密に連携し支援を続けていけたらと願っています。

（文：プログラムオフィサー 阪口佳恵）



（左：ネジャバット氏、右：阪口 2016防災研修 於 石巻）

福島ドナー訪問の報告

今年もまた3月11日を迎え、東日本大震災から6年が経ちました。それは、またCWS Japanが発足してから6年が経ったことを意味します。CWS Japanは2011年の震災時に欧米諸国の多数のキリスト教団体から多額の支援金をいただき、東北支援のために再びオフィスを開設することに

なりました。今回、その内の2団体であるWeek of CompassionとUCC Disaster Ministriesを代表し、二人のゲスト（Vy Nguyen氏、Zach Wolgemuth氏）が米国から来日されました。この2団体は、熊本地震の時にも献金を送って下さいました。お二人ともそれぞれの団体の代表者や

幹部という立場の方々でしたが、想像していたよりもかなり若く、終始冗談を言うような楽しい方々でした。

3月11日に仙台で行われた追悼式に出席し、その足でCWS Japanの東北支援事業を訪問したいという相談を受けました。そこで、今でも放射線被ばくの不安を抱える福島の実状を伝えるべく、CWS Japanが支援するプロジェクトとその他の関係団体の代表者計5人から一緒にお話をうかがうことにしました。

面会者の一人の中に母子避難した経験者で、県内の母親達と情報交換や野菜の共同購入を行う母親グループを立ち上げた女性リーダーが開口一番彼らに尋ねた質問が切実で心に残っています。

「アメリカでは、今、福島の問題がどう見られているのでしょうか？」それに対して、Vyさんは率直に、トランプ政権に代わってからというもの、米国内は非常に混乱しており、連日、トランプ氏の新しい政策について報道され、国外のニュースはほとんど取り上げられていない状況であることを説明してくれました。分かってはいた

ものの、それを聞いて、日本人一同、残念な気持ちになりました。

そんな国内状況ではありますが、お二人は熱心に福島の放射線量のこと、県内に残られている方々や県外避難者の状況を熱心に質問され、メモをとっておられました。別れ際に、帰国後、彼らの団体の関係者・支援者に福島の実状を伝えると約束して下さい、私たちの想いを託すことができたことが唯一救いでした。（文：プログラムオフィサー 牧 由希子）



「ai!郡山」オフィス訪問

防災イノベーターズフォーラムを開催しました！

2017年3月12日に仙台にて「防災イノベーターズフォーラム—市民のアイデアから生まれる防災イノベーション—」を開催致しました！CWS Japanが共同事務局を務める防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）及びジャパンプラットフォーム（JPF）が主催し、仙台市・宮城県の後援を受け実現しました。防災の切り口を企業・教育・環境・観光・ジェンダーと5つに分け、それぞれのグループにおいて「イノベーションのニーズを効果的に吸い上げるためには」「それらのニーズをシーズ（技術・リソース・オーソリティ）に効果的に結び付けるためには」を大テーマに合計70名以上の方々に参加して頂きました。司会は2017年ミスインターナショナル日本代表の筒井菜月さんに努めて頂き、仙台市主催の「仙台防災未来フォーラム」の関連イベントとして大いに盛り上がりました。

CWS Japanが取り組む社会課題は未解決のものばかりで、こういった「未解決を解決する」視点は常に持ち続けていきたいと考えています。

また、昨年発表した「市民のための仙台防災枠組」ですが、この度英語版を発刊致しました！（<http://sendai-resilience.jp/en/sfdrr/>）是非多くの皆さまにご覧頂けますと幸いです。

（文：事務局長 小美野 剛）



パネルディスカッションの様子